

[066_01] 経済学研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4362954>

出版情報：経済学研究. 66 (1), 1999-06-30. 九州大学経済学会
バージョン：
権利関係：

序

阪口紘治教授は、平成11年6月21日にめでたく還暦を迎えられた。九州大学経済学会は心から祝意を表わし、ここに記念論文集を刊行する。幸いにして、教授と親しい外部の研究者から5篇の寄稿を得て、一層充実したものとする事ができた。

阪口教授は昭和37年、九州大学理学部数学科を御卒業後、大学院に進学され、昭和39年修士課程を終了され、博士課程に進学された後、昭和41年1月に九州大学工学部助手に採用された。その後、昭和44年4月に九州大学教養部講師に昇任され同年10月に助教授、平成元年10月教養部教授に昇任された。さらに教養部改組の平成6年から経済学部経済工学科経済数学講座に配置換えになり現在に至っている。この間30有余年、基礎教養科目の教育に尽力され、その暖かな人柄で多くの学生に慕われている。

教授は数理統計学全般、特に実験計画法の分野を中心に御研究を進められてきた。初期の御研究の中には生物モデルにおける、近交係数の新しい計算法の提案や、フィッシャーの研究以来、様々な拡張、深化がなされてきた実験計画法の配置の理論が含まれており、数学的見識の高さが伺える内容である。また教養部という学際的な環境の下で、他の分野との共同研究も幅広く推進されており、いくつかの論文として結実している。論文として形が残っているものばかりではなく、統計的手法のコンサルタントとしても、貢献されており、多くの研究者の論文作成に寄与している。また統計学は常に現実のデータと向き合うべきだという信念と、統計手法の普及のために、日本規格協会主催の「品質管理と標準化セミナー」の講師を多年にわたり務められ、平成7年からは福岡教室の主任を務めておられる。さらに民間会社の品質管理責任者の研究集会である「九州品質管理研究会」の代表幹事として、新しい数理統計学の研究成果の、実務家への普及を図っている。

他方、学内においては平成6年から2年間学生部参与となり、平成7年には六本松学生委員会委員長を務め、難しい学生自治会との交渉にあたられた。その他にも入学者選抜研究委員会の委員として、統計的知識を生かして、選抜方法に対する新しい評価方法を作り出すなど、九州大学の管理・運営に多大の貢献をされた。

御還暦とはいえ、教授は益々お元気であり、学問・教育への情熱を燃やしておられる。ここに教授の還暦記念論文集を編むことができたのは、まことに慶ばしい限りであり、教授の一層の御健康と御活躍を祈念する次第である。

平成11年6月

九州大学経済学会長 近 昭 夫